

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、令和2年度作業部会は令和3年1月下旬に書面会議として開催。

(1) モニタリング結果報告について

モニタリング結果報告について、ハード施策、ソフト施策、水質結果について報告した。

- ・ 都城市、三股町、高原町、曾於市より報告があったハード整備の現況、変化要因についてとりまとめを行い、多くの項目で改善傾向であることを確認した。
一方、排水規制対象事業場に対する立入調査に伴う行政指導件数で前年より変化が大きく、水質の悪化による基準値超過、苦情通報の増加等が要因として考えられた。
また、畜産排水の苦情通報については、基準値内の排水であっても、水の色が残っているため汚水を流していると通報がある場合がある。
- ・ 水質調査結果について、H31 (R1)において達成すべき目標値は、評価4地点（樋渡橋、乙房橋、志比田橋、岳下橋）・項目（BOD、全窒素、全リン、糞便性大腸菌群数）で満足している。
しかし、BODに関してはH31 (R1) と H30 を比較すると悪化している状況が確認されており、支川の一部地域でも悪化しているため引き続き監視が必要である。

(2) 産官学民協働の取組みについて

産官学民の取組について学校、企業、住民団体の取組について報告した。

- ・ 都城工業高校、霧島酒造、ヤマエ食品工業、どんぐり1000年の森、手仕事舎そうあい、都城大淀川サミットの現状の取組について報告した。
- ・ どんぐり1000年の森をつくる会の活動が「令和2年度手づくり郷土賞」で大賞を受賞したことを紹介した。

(3) WEB アンケート結果の報告

地域住民を対象に実施したWEBアンケートのとりまとめ結果を報告した。

- ・ 河川水質を悪化する要因として、家庭からの雑排水と感じている人が多かった。
そのため、引き続き家庭排水対策、合併浄化槽への切替等の普及啓発活動が必要である。
- ・ 将来、川に期待することとして、「水遊びできる川」、「自然が豊かな川」等の意見が多かった。
このことから、河川が本来有する川の姿を求めていると考えられ、今後自然の恵みを活かした「生態系サービス」の取り組みを進めていく必要がある。

(4) 昔の大淀川の利活用について

昔の大淀川の利活用について、文献等にて調査した結果を報告した。

- ・昭和2年頃はプールが少なく、川で泳いでいた。
その後昭和30年代後半になると、でん粉工場排水による河川汚濁があった。
- ・「子供たちが水遊びできる川」のキーワードはよいと思う。
理想像は昭和30年代以前の川の姿や利用だと思う。ただし、沖水川上流域など、現在でも素晴らしいところがあるため、注意が必要である。
- ・地域が高齢化している今、昔の暮らしぶりなどをもう少し調査するとよい。

(5) 生態系サービスの取り組みについて

大淀川流域における生態系サービスの取り組みについて情報提供を行った。

- ・生態系サービスの取り組みは大切だが、一般の方にはわかりにくい感がある。
ターゲットを絞り込み、それを広げていくような取り組みが必要ではないか。

以 上